

## CES 2026 訪問レポート 世界最大級テックイベントで感じた技術潮流と展示の進化

2026年1月、米国ラスベガスで開催されたCES 2026を訪問しました。

AI、半導体、モビリティ、スマートホーム、デジタルヘルスなど、極めて広範な技術分野と産業を横断する世界最大級のテクノロジーイベントとして知られるCESですが、実際に会場を歩くと、その規模と多様性は想像をはるかに超えるものでした。

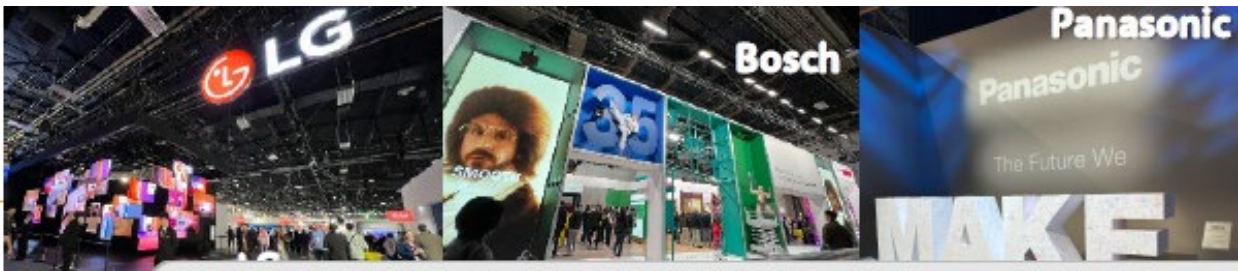
展示会という枠を超え、各国の産業戦略、企業のビジョン、スタートアップの挑戦が交差する「未来の産業社会の縮図」のような場であることを強く実感しました。

### 圧倒的スケールのグローバル企業展示

LVCC Central Hallでは、世界の主要企業による巨大なブースが並び、1社あたりの展示面積や演出のスケールの大きさに圧倒されました。

米国企業に加え、中国企業の存在感は非常に強く、技術力と投資規模の大きさが会場全体から伝わってきます。一方で Boschをはじめとする欧州企業は、産業応用や実装技術を前面に打ち出した展示が多く、BtoB領域での競争力の高さが印象に残りました。

日本企業ではパナソニックのBtoB志向の展示が特に印象的で、従来の家電メーカーという枠を超えた事業領域の広がりを感じました。



### スタートアップと各国パビリオンの活気

私たち M.I. Office は、主に Eureka Park を中心とした各国パビリオンを訪問しました。ここでは、スタートアップ支援機関や地域団体による展示が並び、国・地域単位での技術発信の場として大きな活気を見せていました。特に韓国から多くの産業団体や地方自治体が数多くのパビリオンを構成していました。その中であって、JETRO の「J-Startup/ Japan パビリオン」には日本発スタートアップ 31 社、大阪商工会議所の「JAPAN Tech」パビリオンは日本企業 37 社がブースを構えており、非常に多くの人を訪れ関心を集めていました。世界的に見ると日本の出展規模は相対的に縮小傾向にある一方で、日本の技術やスタートアップとの連携に対する関心は依然として高いことがうかがえました。

## EUREKA PARKを中心にグローバルなパビリオンの様子

Japan



19

M.I.Office  
Crossing for tomorrow

### モビリティは「機能」から「体験」へ

ソニー・ホンダモビリティの個別デモに参加する機会がありました。

10分以上にわたる説明のほとんどが車両性能ではなく、UI や車内エンターテインメント体験に費やされていた点が印象的でした。

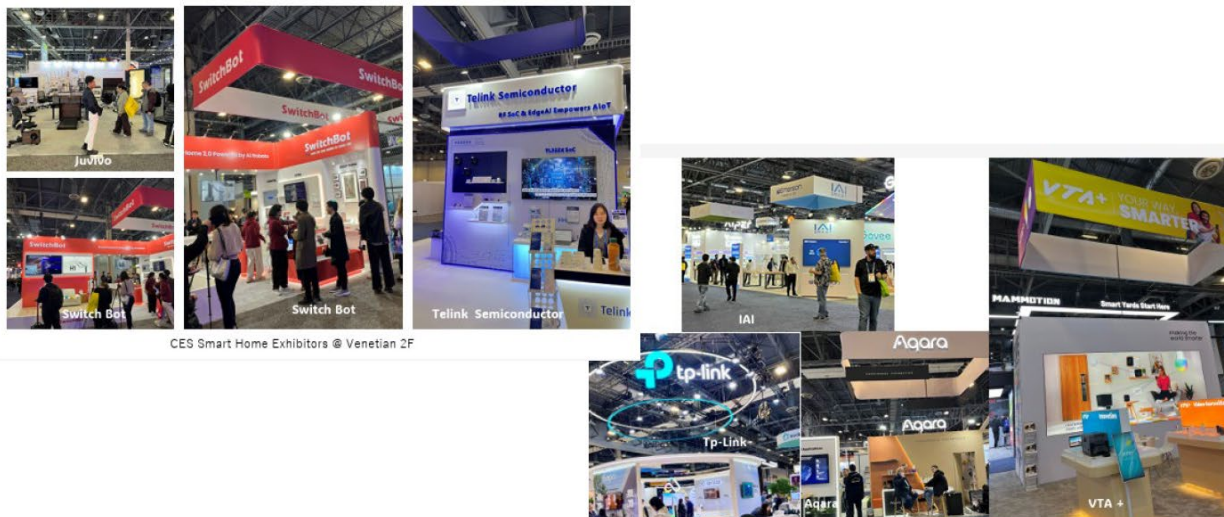
モビリティを「移動手段」ではなく「体験価値」として捉えるコンセプトが明確に示されており、製品ではなく体験を提供する時代への移行を象徴する展示でした。



## スマートホームが示す暮らしの未来像

Venetian 会場のスマートホームエリアでは、生活空間全体を統合するソリューション型の展示が多く見られました。個別デバイスよりも、AIを活用したプラットフォーム連携や生活シーン全体の最適化を提案する企業が増えており、スマートホーム分野が「機器」から「生活体験設計」へ進化していることを感じました。

## VENETIAN 2F SMART HOME AREAの様子



CES Smart Home Exhibitors @ Venetian 2F

21

M.I.office  
Crossing for tomorrow

## 世界の技術潮流が交差する場としての CES

CES は、グローバル企業、スタートアップ、各国政策が交差する場としての性格が非常に強く、単なる展示会ではなく産業の方向性を示すプラットフォームとしての側面を改めて認識しました。

AI、モビリティ、スマートホーム、ヘルスケアなど分野横断の展示構成は、産業の境界が急速に溶けている現在の技術潮流を象徴しており、展示そのものが未来社会のシナリオを提示しているかのようでした。



CES は、技術だけでなく「社会の変化の方向性」を体感できる場であると感じました。

世界中の企業や国・地域が未来をどのように描いているのかを直接触れる貴重な機会となりました。



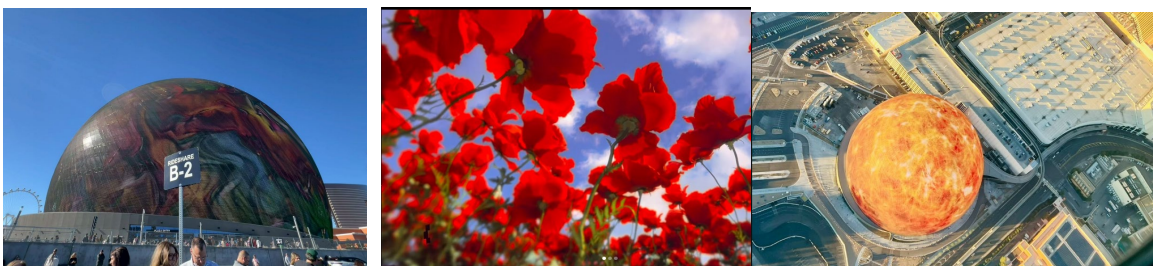
M.I.Office では今後も国際展示会やテクノロジーイベントの現場から、技術動向や展示トレンド、国際ビジネスの変化を継続して発信していきます。

### 付録：ラスベガスで体験した次世代エンターテインメント「Sphere」

CES 訪問終了後、現地で“Must-go”と勧められ、ラスベガスの新たなランドマークとして注目されている巨大球体 LED シアター「Sphere」を訪れ、没入型映像体験プログラム「The Wizard of Oz」を鑑賞しました。

360 度に広がる高精細な 3D 映像と圧倒的なサウンドに加え、シートの振動や風、香りの演出まで組み合わせられ、視覚・聴覚・触覚を横断するまさに次世代のイマーシブエンターテインメントでした。

エンターテインメント体験そのものが空間設計とテクノロジーによって再定義されていることを体感できる、印象的な体験となりました。



M.I.Office は、国際会議・展示会・イベントの企画運営を通じて、国内外のビジネス交流と価値創出を支援しています。活動レポートでは、スタッフが現場や訪問先で得た気づきやトレンドをご紹介します。